



〜天国の母へ〜

高橋
覚

天国に宝を積んで、母の元へ行く。六つの時に母が事故でなくなって以来ずっと、心に住み続けている母に語りかけてきた。母のことは「オカチャン」と呼んでいた。

オカチャン、あなたはなんて重いテーマを子どもに課して行ったことか。そんなもの、もらいたくなかった。56歳になった今、わたしはあなたが亡くなったときの歳より20歳も長く生きた。あなたとの短い生活の思い出。忘れられないあなたの笑顔と弾んだ声は、わたしを愛する証拠だと思った。そして、風の強い日に強い農薬を撒いて身体中にめぐらせ苦痛にのたうつあなたの形相は、わたしをただ恐怖に陥れた。『兄弟仲よく暮らせ。』と書かれた書付。

母の死の意味が分からない。人生の苦境時に遭うたび、誰にも相談できぬ悩みに苦しんだ。あなたはなぜわたしたち子どもを捨てて自死したのだ？…それが歳を重ねるほどに激しくなる。人の優しさと愛しさを知るほどに、オカチャンあなたの元へ行きたい誘惑に駆られる。あなたを恨みあなたを求めながら。家族のあたたかさ教師をしていて知る生徒の輝きがいつもわたしを力づけ、あなたに向かう心を止めさせた。

あなたに抱かれなくて、声を殺して泣き通す夜は、今も変わらない。